

綾部グッドデザインAtoZ

発行日 2021年3月25日

文 塩見直紀

写真協力 鈴木 隆(写真家) 藤崎優子(写真家 ※表紙写真)

工忠照幸・衣里子(里山ゲストハウス クチュール)

朝子直樹(綾部市役所)

綾部市観光協会(フォトコンテスト受賞作品撮影者の皆さん)

デザイン 黒胡麻くりえいと

発行 綾部ローカルビジネスデザイン研究所(代表 塩見直紀)

090-6249-6539

conceptforx@gmail.com

AtoZ専用ホームページ <https://atozconcept.net>

※この冊子は綾部市市制施行70周年協賛事業補助金を活用して制作しました。



綾部グッドデザインAtoZ

もうひとつの綾部ガイドブック

message

33歳を機に故郷の綾部にUターンしたのは

1999年1月のことでした。

綾部市制施行50周年の前年のことです。

数年前から、綾部の新しいガイドブックを

つくりたいと思ってきました。

古いもの、新しいもの。

大きいもの、小さいもの。

見えるもの、見えないもの。

自然によるもの、

人と自然との合作のもの。

「空間デザイン」や

「自然と人がおりなす作品」など

「グッドデザイン」を紹介する

「綾部グッドデザインA to Z」を

70周年を機につくってみました。

神様はデザイナーだと思ふことがあります。

先人はすごいと思わされます。

私たちも少しでも後世に

何かよいものを遺せたらいいですね。

グッドデザインという視点によって、
新たな発見が綾部で生まれたらうれしいです。

綾部ローカルビジネスデザイン研究所 塩見直紀

綾部の約20年を振り返るもうひとつの綾部年表

1996年	志賀郷で「サンタパレード」初開催
1997年	それぞれの工房展、初開催
1998年	FMいかる開局
1999年	33歳を機に、故郷・綾部へUターン(塩見直紀)
同年3月	母校・旧豊里西小学校閉校に
2000年	廃校を拠点とする「里山ねっと・あやべ」誕生 市制施行50周年
2002年	古民家蕎麦屋「そばの花」(上八田)にオープン
2003年	『半農半Xという生き方』(塩見直紀著)出版
2005年	志賀郷に古民家と若い家族をつなぐ「コ宝ネット」発足
2006年	「水源の里」の取り組みスタート
2007年	1泊2日の半農半Xデザインスクールを初開催
2007年	綾部里山交流大学(交流デザイン学科)初開催
2008年	『若杉友子の野草料理教室』(若杉友子著)出版
2010年	竹松うどん(志賀郷)オープン
2010年	「志賀郷田舎手作り三土市」初開催
2015年	あじき堂(志賀郷)オープン
2016年	『驚きの地方創生「京都・あやべスタイル」』(蒲田正樹著)出版
2017年	コミュニティナース3名赴任
2017年	小さなアースデー in 里山ねっと・あやべ、初開催
2019年	田楽学校(移住立国イベント)、初開催
2020年	市制施行70周年
2021年	綾部市内の農家民宿軒数は20軒以上に 現在



Andoukenchiku



Bunouichinyo
& Aikido



Chabatake



Deguchi Onisaburo
youwan



Enfun



Flower

綾部にUターンして驚いたのは、世界的な建築家である安藤忠雄さんの作品が綾部にあるということでした。「綾部工業団地・交流プラザ」は1995年完成。何度かコンサートや講演会、シンポジウム、イベントなどを体験してきましたが、安藤さんが願ったように、交流による創発がもっと生まれたいですね。

安藤建築

故郷であった和歌山田辺への帰路、汽車のなかで綾部のうわさを聞き、大本と出口王仁三郎にひかれた武道家・植芝盛平翁は一家で綾部に移住。そして、綾部で合気道の型が生まれま
す。植芝翁の「武農一如」という言葉、ひかれます。合気道をやっている人が綾部に移住されたらすてきだし、無敵なまちになりそうです。

武農一如と合気道

我が家も小学のころまでお茶づくりをしていました。子どものころは連れられて、茶畑でよく遊んだものです。旧豊里西小学校の跡地を拠点とする「里山ねっと・あやべ」のスタッフになり、小学校区の地域資源を探るなかで、小西町の茶畑の魅力にひかれるようになりました。それはまさにラビリンス!

小西の茶畑風景

僕は大本信者ではないですが、巨人・出口王仁三郎さんにひかれ、生涯を記した本など読むことができました。その王仁三郎さんですが、陶芸の作品がすくなくて、「耀盃」と呼ばれています。デザインを超えた世界!まさに宇宙です。

出口王仁三郎さんの耀盃

誰が眠る墓かわかりませんが、私市(ささいち)円山古墳は大型の円墳。京都府内では最大規模だそうです。眼下には由良川のゆたかな流れ。眠れる方の遺言だったかわかりませんが、設計者の空間デザインの力はすばらしいです。

私市円山古墳(円墳)

綾部の写真家の鈴木隆さんが見つけたシャガとミツマタの群生。以来、府内外からも訪問される綾部有数のスポット、観光資源となりました。新たな宝物はまだ見つけることができることを教えてください。

シャガとミツマタ



Gunze



Healthy food



Inori



Jizo



Kanbayashikaidou



Local media

前田正名の講演を聞いて、インスパイアされた波多野鶴吉翁は郡是製糸(現在のグンゼ)を創業。当時、綾部は何鹿(いかるが)郡。郡の是(指針、コンセプト)とは素晴らしい名前です。小株主を大事にした経営もグッドデザイン!

グンゼの近代化産業遺産、社名、小株主

野草料理研究家の若杉友子さんが綾部に住んでおられたり、かやぶきの宿「吉水」があったり、綾部は自然食の、オーガニックのイメージもあるのではないかと思います。「つむぎ」や米粉のKOKU、竹松うどん、あじき堂、たくさんの農家民宿も素晴らしい料理を出されます。みんなすてきなフードデザイナーです!

ヘルシーフード

1974年に制定された綾部市民憲章にあることば「祈りのあるまち」。「祈りのあるまち」ってすてきだと思いう市民が多いこともすてきです。いつまでも大事にされていきますように。夕方、流れるあのメロディ、いまでは懐かしいです。

祈りのあるまち

我が村の大好きな風景です。都会の人も村人も、同じ風景をいい風景だと感じることを教わりました。都会や海外からの旅人があった場合、よくお連れし、記念写真を撮りました。磨けばもっと輝く地になりそうです。僕の夢は「この風景のみのフォトコンテスト」ができないかということでした。

お地藏さまと一本檜(鍛冶屋の八塚)

口上林~中上林の府道1号線の道沿いには、古民家が並ぶ風景が続きます。その風景にひかれる人も多いでしょう。これだけの数の古民家群が現存しているところはめずらしいこと。なんとかこの風景が続いていきますように。夕日がちょうど街道に沈んでいきます。誰の設計でしょう。

上林街道の古民家群

あやべ市民新聞とFMいかるという2つのローカルメディアの存在は市民にとって、とても大きなものです。誰が言い始めたかわかりませんが、「メディアの自給」が大事だと教えてもらったことがあります。メディアのあるまちをデザインされた方に敬意を表する次第です。

2つのローカルメディア



M

Momiji



N

Nioumon



O

Oomoto



P

Peace



Q

Qestion



R

Rose

大本の節分祭に、市民はよく出かけていますが、紅葉のころも訪ねるようになりました。大正と昭和期、2度の国家弾圧があったといえます。平和の時代になりますように。

紅葉の庭園（大本、安国寺など）

光明寺は推古天皇の時代に聖徳太子が創建したと伝わっています。宝治2年（1248年）に建立されたとされる仁王門。昭和29年、国宝指定されました。二王門と鐘撞堂は修復工事がおこなわれ、約750年前の姿に。750年先の綾部は、世界はどうなっているでしょう。

二王門

市外から綾部にお客様があった際、お連れすると、「綾部でいちばん」との声も。長生殿は昭和最大級の木造建築。弥勒殿も重厚ですばらしいです。時間を忘れられる場所、まさに聖域です。

弥勒殿&長生殿（大本）

綾部は日本で最初の世界連邦都市宣言をおこなった地です。昭和25年、議会で全会一致で可決されるのですが、当時の人の意識の高さが素晴らしいです。平和をデザインすること。私たちはその努力をもう1度すべきなのでしょう。

世界連邦都市第1号宣言都市

昭和41年、「生きがい」という文字がついた本が2冊、世に出されました。神谷美恵子の『生きがいについて』。もう1冊は綾部ゆかりの出口日出麿による『生きがいの探求』です。日本人の生きがいブームに火をつけた本。ときはめぐり、いま、「生きがい (ikigai)」は海外でも使われることばになったそうです。

出口日出麿の問いかけ

綾部駅北口にはアンネ・フランクの像と『アンネの日記』からとられたことばが書かれた石碑があります。大事なことを思い出すために、ときどき見に行くのもいいでしょう。アンネのことばとアンネの像、バラが心にしみます。またグンゼスクエアのバラ園は新しい観光名所となりました。

アンネのバラ&綾部バラ園



S

Satoyama



T

Tochi&Buna



U

Unkai



V

View



W

Washi



X

Han no han X

大津在住の写真家・今森光彦さんの里山写真を知ったのが1995年ころ。昆虫少年だった僕は今森さんの本『里山の少年』や写真集『里山物語』を見て、里山にひかれるようになりました。人と自然の合作。綾部の里山を歩いて楽しんでみてください。

里山風景

Uターンしたころ、山好きの方が連れていってくださいました。頭巾山には府内でも有数のブナ林。京都の自然200選となっています。君尾山光明寺の近くにある大トチの木は、樹齢2000年ともいわれ、トチとしては京都府一の巨木です。こちらも同じく200選の1つにも選ばれています。

トチ群、ブナ群

里山ゲストハウス「クチュール」の工ささん夫妻は宿に泊まれた旅人を連れ、雲海をよく見に行かれるようです。霧も雲海も、地域資源になるってすてきですね。亀岡市では、「霧の芸術祭」をされていますが、綾部でもアートイベントがうまれるといいですね。

雲海

子どもが小さいころ、位田町の高城山に家族で登りました。頂上から見た由良川と綾部の市街地風景がなんとも美しく、とてもひかれました。ときどき高いところからまちを見るって大事ですね。まちづくりには、ときどき高いところからまちを見るのが大事ですね。

高城山からの由良川と市街風景

平家落人が伝えたと言われる黒谷の紙漉き。黒谷の町並みと紙漉き風景もすてきなデザインです。綾部では小学6年生が黒谷で和紙を漉き、それが卒業証書になります。わが娘も体験させていただきました。とてもすてきなことです。

黒谷の町並み、紙漉き風景

手前みそですが、半農半Xも1つの生き方デザイン、ライフスタイルデザインということで紹介させていただきます。2021年3月、綾部市立図書館に拙著やインタビュー本、AtoZ関連本と作品群を寄贈させていただきました。半農半Xに関心ある若い世代が本に触れ、まちに触れ、この地に住みたくなくなってもらううれしいです。

半農半X



Yuragawa no
Yuhi



Zutto

夕方、位田橋を車で渡ると、見事な夕日に出会えることがあります。車をとめて、見れないのが残念。位田町に住んでいる人がうらやましくなります。

由良川の夕日

綾部で始まった高齢化率の高い小規模集落「水源の里」の取り組みも10年を超えています。いま、京都産業大学現代社会学部の滋野ゼミ、龍谷大学政策学部的場ゼミによって、8集落がそれぞれAtoZ冊子になりました。それぞれの集落が各26の魅力で表現。「地域の名刺」「集落の名刺」となればうれしいです。

「ずっと」をデザイン



●綾部定住サポート窓口●

綾部への移住がしたくなくなったら、ぜひ相談ください。お試し住宅もあります。

<https://ijurikkoku.com/teijyusupport/>

●綾部の農家民宿体験●

ぜひ1度、綾部で農家民宿体験を。20を超える農家民宿が誕生しています。人生について、ぜひオーナーと語り合ってみてください。

<https://www.kyoto.ayabenuhaku.com/stay-jp>

手に取ってほしい綾部系作品! 以下、AtoZ専用ホームページで公開中です(atoz makersで検索)

天職観光AtoZ【綾部編】(2019)

制作 あやべ市民新聞移住立国チーム
+塩見直紀

綾部コミナスAtoZ(2018)

制作 コミュニティナース・鍋島野乃花さん
ほか

水源の里AtoZシリーズ(2019~2020)

老富、光野、市志、市野瀬、古屋、かんばら、
金河内、仁和の8集落

制作 京都産業大学現代社会学部滋野ゼミ、
龍谷大学政策学部的場ゼミ

AtoZスケッチ(2020)

制作 塩見直紀
デザイン: 水田ウタコさん(ミズタマート)
自分発見ツールです。

26の問いに答えてつくる 1人1研究所NOTE(2021)

制作 塩見直紀

ライフワークを見つけるためのツールです。

ローカルビジネスのつくり方問題集 (綾部編、2015)

制作 綾部ローカルビジネスデザイン研究所
ゲンズスクエア内「あやべ特産館」で販売中です。

お茶のことを発見してもらうための問題集 お茶の魅力も課題もつめこんだ16の質問 ~過去から現在、そして未来へ(2021)

制作 櫻井喜仁さん(茶農家)、山本優花さん、
米村彩花さん(福知山公立大生)
「アイデアブック お茶問題集」で検索ください。



さらなるグッドデザインな 綾部を求めて

回答:塩見直紀



Q.綾部の魅力って何？

よく尋ねられるのですが、精神風土、精神性が綾部の魅力だと思っています。大本が開教されたり、キリスト教精神の郡是製糸(グンゼ)が生まれたり、合気道の発祥地だったり、エスペラント語が日本に広まる大きな役割をしたり、世界連邦第1号宣言都市、「アンネのバラ」の育苗地などが僕にとっての綾部の魅力です。

Q.綾部の型とは

僕は綾部を3つのキーワードの掛け算で表現してきました。「ものづくり」(グンゼや日東精工、など)と「里山・平和」(里山の風景、合気道、世界連邦、エスペラント)と「人生探求」(大本、生きがいの探求)の3つです。こうした3つのキーワードがまざって、綾部があるような気がしています。

Q.綾部でおこなわれた印象的なイベントや空間

印象的なものを3つ、ご紹介したいと思います。1つ目は志賀郷で第3土曜におこなわれた「三土(さんど)市」です。ローカルでハイセンスなすばらしいマーケットでした。同じく志賀郷の棚田のハス園もすばらしい空間でした。3つ目は市街地の本町にあった「扇屋懐古亭」です。街と里をつなぐすばらしい町家空間でした。そこで知り合った仲間も多かったと思います。

Q.綾部と半農半Xについて

半農半Xというコンセプトは京都市内でサラリーマンをしていたころ、生まれたことばですが、綾部から半農半Xが生まれたのはわかる気がするという方もおられます。33歳でUターンして早いもので20年経ちました。思いがけないことですが、2021年3月末からつれあいの里(山口県下関市)で暮らすことになりました。半農半X関連の本をすべて、綾部市図書館に寄贈させていただきました。半農半Xに関心のある方が図書館で本に触れ、まちを気に入る、移住や関係人口につながればと願っています。

Q.綾部で取り組みたかったこと

「本をテーマにしたまちづくり」です。綾部が舞台となった小説がいくつもあります。グンゼ(郡是製糸)創業者の波多野鶴吉翁が主人公の『妍蟲記』(山岡壮八)など、大本がテーマの『邪宗門』(高橋和巳)、合気道創始の植芝盛平翁がテーマの『黄金の天馬』(津本陽)です。出口日出磨の「生きがい三部作」、「フォークの神様」と呼ばれた歌手・岡林信康さんの綾部移住記『岡林信康の村日記』もあります。数年後、生まれる新しい図書館も楽しみです。もう一つ、やりたかったテーマがあるとしたら、「生きがい」でしょうか。いまは「ikigai」と英語となっているそうです。生きがいをテーマにできることがありそうです。

Q.綾部はどんなまちになればいい？

20年間、思ってきたのは「人生探求都市」というビジョンです。人生や未来のヒントを提供できるまちです。合気道をやっている人は世界にたくさんいるので、「合気道移住」が増えるとおもしろそうです。よく講演会で言ってきたのは、綾部人はみんなグンゼの下着をつけている。そして、みんなエクスフル。そんなまちになってほしいです。「26の問いに答えてつくる1人1研究所NOTE」や「AtoZスケッチ」というミニブックをつくっています。ぜひ活用いただけたらうれしいです。